

はるなつ
春夏どりニンジンを省力・低コストに
作れるべたがけ栽培

～通気性のある保温資材を直接被覆する簡易な栽培技術～

5月から7月に収穫する春夏どりニンジンでは、12月から3月の寒い時期に種をまくため、トンネル状にパイプなどを設置し、その上にフィルムをかけるトンネル栽培が行われています。この保温のための作業には、多くの労力とコストがかかります。

そこで、通気性のある保温資材（不織布）で直接ニンジンを覆うことで作業を楽にし、コストを削減できるべたがけ栽培法を開発しました。

1 成果の内容

(1) 春夏どりニンジンのべたがけ栽培法を開発しました。

- べたがけ栽培法では、通気性のある保温資材（不織布）を使用します。
保温資材を2枚重ねてかける場合、1月下旬から種をまき6月中旬から収穫することができます。1枚のみの場合は、2月下旬から種をまき、7月上旬から収穫できます。
- トンネル栽培では、気温が高くなると、フィルムに穴をあけたり裾を開閉したりする換気作業が必要ですが、べたがけ栽培では、通気性のある資材を使うため必要ありません。
- ただし、べたがけ栽培では、ニンジンが長めになり、商品性を損なう花芽ができやすいので、このようになりにくい品種を使うことがポイントです。

栽培法	12		1		2		3		4		5		6		7	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
べたがけ (2枚がけ)				●				●								■
べたがけ (1枚がけ)					●		●									■
トンネル	●						●									■

●：種まき ■：収穫 —：資材被覆 ←→：換気

べたがけ栽培とトンネル栽培の栽培暦



べたがけ栽培（中央2列）

(2) トンネル栽培と比較した作業時間と資材費の削減効果を明らかにしました。

- 資材の被覆から除去までの作業時間は70%が削減され、省力的です。
- 関連資材費は、2枚がけの場合30%、1枚がけの場合60%が削減されます。

2 普及の状況

令和4年の県内ニンジン産地におけるべたがけ栽培の導入面積は約5haです。

3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター

水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 0478-59-2200

4 掲載年月 平成30年1月（令和5年11月更新）